

真名川ダム湖内での水面の変色について ～（第2報）～

5月26日午後3時頃、職員がダム湖周辺の巡視中に発見した水面の変色について、続報をお知らせ致します。

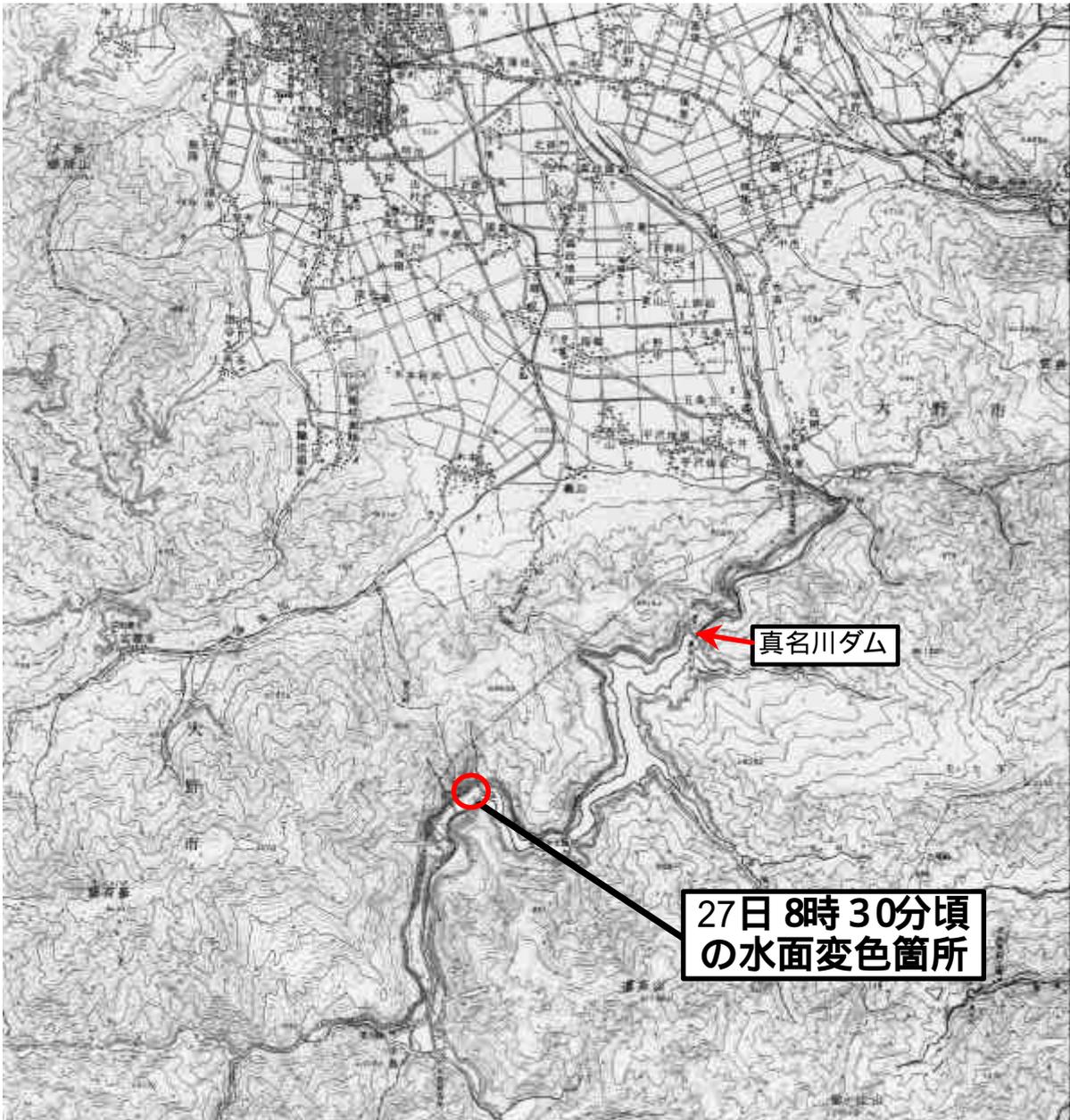
本日（27日）8時30分頃、現地確認しましたところ真名川ダムより上流7kmで延長50mまでに減少していました。

昨日（26日）発見後に行いました採水を（財）北陸公衆衛生研究所に分析依頼した結果、変色原因は植物プランクトン（渦鞭毛藻の「ペリディニウム」）によるものであると判明しました。

「ペリディニウム」とは貯水池でよくみられるプランクトンで、細胞の大きさは15～60 μ m程度、春から夏にかけてよくみられ、増殖した場合には魚臭を伴った赤褐色ないし黄褐色の淡水赤潮を形成することがあります。

又、同研究所所長によりますと、このペリディニウムは人体や生物、魚類等への影響を与えるものではないとの見解です。

第1報は別途添付致しております。



真名川ダム 位置図

真名川ダム湖内で水面の変色について

本日5月26日午後3時頃、職員がダム湖の巡視中に水面に広範囲に赤茶色に変色しているのを発見しました。

変色範囲は、真名川ダム上流5kmから7km付近（大野市下笹又）に及んでいますが、今のところダム下流への影響はみられません。

九頭竜川ダム統合管理事務所では、原因究明にむけ緊急の水質調査を実施中です。



真名川ダム 位置図